

<集団的かつ持続可能な支援体制の構築に積極的に取り組む事例>

○集落共同取組活動で戸別の農業経営を確立

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	北海道足寄郡足寄町 稲牛			
協定面積 110.5ha	田	畠	草地 (100%)	採草放牧地
	0	0	110.5ha	0
交付金額 226万円	個人配分			
	共同取組活動 (100%)	集落管理体制役員報酬・事務委託費 農地保全、鹿柵保守管理費 集落環境清掃整備美化・廃プラ処理・花壇整備 家畜糞尿堆肥化、散布、収穫共同作業 担い手育成、女性活動・青年活動 開拓100年記念事業 会議費、活動経費、役員会、事務費	21万円 33万円 65万円 60万円 18万円 9万円 20万円	9% 15% 29% 26% 8% 4% 9%
協定参加者	農業者 12人、稻牛集落農業推進会議（構成員13人）			開始：平成12年度

2. 取組に至る経緯

・稻牛地区は、明治中期に釧路白糠方面から陸路による開墾が始まり、当町開拓の始まりとなった。しかし十勝川の河川交通と網走本線開通により開拓は鉄路による面的な広がりとなり、当地区は、豊かな土壌に恵まれ開墾は早かったものの、沢沿いに細長く伸びる狭隘な地形で、不定形な草地・畠であることから機械化による作業能率は悪く条件不利な土地柄となった。しかし、長年の開拓の労苦を乗り越えた地域住民のまとまりは良く、話し合いの機会を多く持ち、地域が次の世代に継承されることを願っていることから、後継者の就農、嫁不足、高齢化による労働力不足、エゾ鹿食害被害などの問題を解決するため、取組を実施することとし、担い手（後継者）の意識向上や共同取組活動などで、集落全体の支援体制を築き上げ、戸別の健全な農業経営確立を目指している。

3. 取組の内容

・戸当たりの平均耕作面積は、草地・畠あわせて24haであることから、小麦、甜菜、雑豆の畠作物に黒毛和牛の繁殖を取り入れ、有畜農業の確立を図っている。和牛は十勝和牛の中でも足寄和牛として、本州方面の肥育農家からは丈夫で良質な肥育素牛として安定的な評価を受けている。地形・面積から機械化による大規模農業には適していないため、機械の共同利用・共同作業、共同育苗など、各農家が集まって話し合いし、集落全体の生き残りをかけて、知恵と汗を出し合っている。



【 保全マップの作成 】



【 構成員による、意見の作業場 】

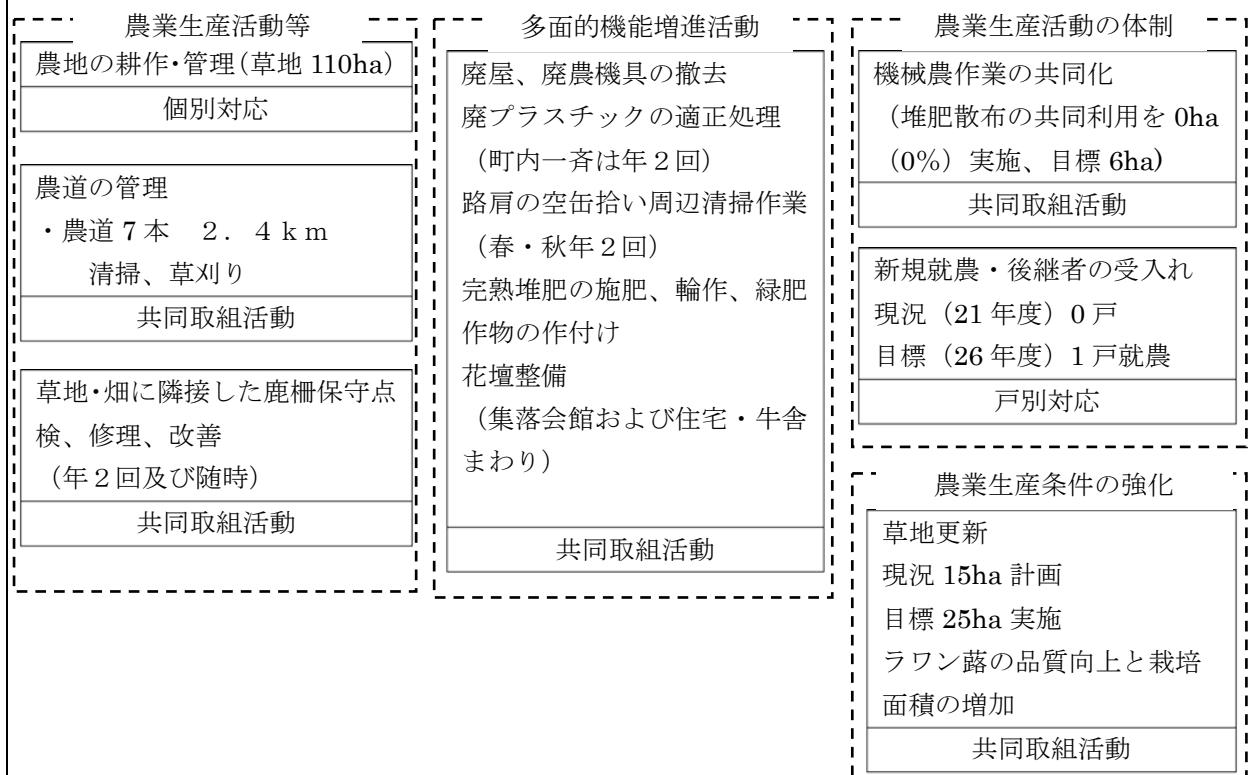
[集落の将来像]

○ 地域の実情に即した持続的な農業生産活動等の体制整備により、農家戸別の健全な農業経営の確立をめざす。作業効率の悪い条件不利な土地柄であるが、地域住民のまとまりにより、話し合いの機会を多く持ち、知恵を出し合い、次の世代へ農業を継承していく。寒冷地作物と和牛繁殖の有畜複合経営に加え機械が入らない川ふちの畑に、地元特産のラワン蕗の露地栽培面積を増やし、換金作物として収入の柱の一つにする。



[将来像を実現するための活動目標]

- ・協定農用地の拡大
- ・機械・農作業の共同化等営農組織の育成
- ・農業生産条件の強化
- ・新規就農後継者の確保
- ・認定農業者の育成
- ・生活環境の整備 (農家周辺環境整備・合併浄化槽の整備)



集落外との連携

○中山間地域等直接支払交付金制度に取り組む集落は32集落あり、年2回全体集落が集まり、他の集落と情報交換、活動内容の向上を図っている。なお、全町一円に設置されたエゾ鹿被害防止柵の保守管理作業は集落ごとに分担し、連携して防止柵の効果を保持している。担い手対策の青年研修活動、女性活動、婚活事業などは連携して取組みしている。

4. 今後の課題等

- ・同じ課題を抱えた農業者および集落が集まって、地域の課題は地域で取り組みして行こうとの意識が表れ、一緒に考えて行動していくという機会が多くなった。
- ・稻牛集落の地域の良さ、人柄の良さ、食べ物の良さを表面にして、都市住民との交流の機会を多くし、後継者就農対策や、婚活事業に成果を出していく。

[第2期対策の主な成果]

- ・土壤診断、土壤改良、完熟堆肥施肥を行い、草地整備した。現況15ha実績21ha
- ・新規就農後継者の確保は、1名が経営移譲を受け、就農した。
- ・エゾ鹿被害に対して、防止柵だけでは対処できないため、町内で講習会を持ち全集落あわせて30名がワナ免許取得し、エゾ鹿駆除捕獲に効果をあげ協定農用地保全につなげることができた。